

自転車走行指導帯設置による 車道通行環境の確保

- ・自転車走行指導帯（以下、ブルーレーン）設置により、自転車の車道通行が促進され、歩行者の安全性が向上
- ・ランブルストリップス設置により、自動車の左折時の自転車との交錯を抑制
- ・ブルーレーン設置により、自転車の通行位置が明確になり、ドライバーの注意意識が変容



●自転車の車道走行が促進され、歩行者の安全性が向上

■自転車の通行位置

整備後はブルーレーンを通行する自転車が増加。
整備前: 8% → 整備後: 最大63%
(平均49%※)

※自転車ブルーレーン通行率平均49%は、10月10日~31日の平日調査結果のうち、雨天時を除く日の平均値

【自転車通行位置の変化】



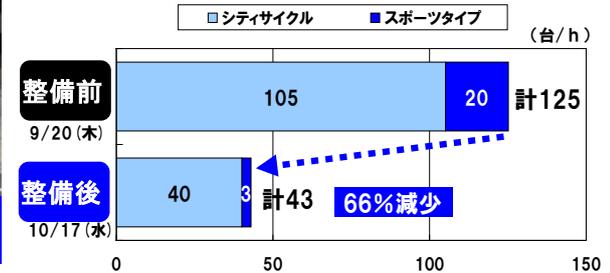
■歩行者の安全性

自転車がブルーレーン通行に転換し、歩道空間にゆとりを創出、安全性が向上。

歩行者と自転車通行の錯綜

整備前: 125件
⇒ 整備後: 43件(66%減少)

【歩道における歩行者と自転車通行の錯綜(ピーク時、北側歩道)】



●左折巻き込み防止対策により安全性が向上

■ランブルストリップス設置効果

ランブルストリップス設置により、左折車による巻き込み防止のための注意喚起となる効果が見られ、札幌都心部における有効な整備手法の一つとして評価。

【対策前の交差点部の状況】



【対策後の交差点部の状況】



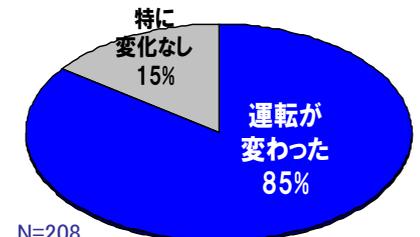
ランブルストリップス: 舗装路面を削り、車両に対して凹型を連続した注意喚起対策

●ドライバーの注意意識が変容

■ドライバーの意識

自転車の通行位置が明確になり、ドライバーの注意意識が変容。ドライバーの85%が自転車を意識するようになった。

【ドライバーの自転車に対する意識の変化】



※北海道開発局調べ